

MiYAGOSTINI

2021年度
冬号

腎機能に注意が必要な薬剤② 鎮痛薬編

お待たせしました！『MiYAGOSTINI（ミヤゴステイーニ）』第2弾です！創刊号は抗ウイルス薬とNSAIDsをお届けしましたが、今回の鎮痛薬も副作用の起こりやすい要注意薬剤です。腎機能を確認する最初の一步として、MiYAGOSTINIをぜひご活用ください。

初：初期用量 維：維持量 最：最大用量

CKDシール
黄色

CKDシール
赤色

| | | GFRまたはCCr (mL/min) | | | | | | 血液透析 腹膜透析 |
|-------------------|--|--|--|--|--|--|----|--------------|
| | | 60 | 50 | 40 | 30 | 20 | 10 | |
| リリカ カプセル・ 錠 | 神経障害性 疼痛 | 初：1日150mg 分2 維：1日最大300mgまで 最：1日600mg | 初：1日75mg 分1or分3 維：1日150mg 分2or分3 最：1日300mg 分2 | 初：1日25~50mg 分1or分2 維：1日75mg 分1 最：1日150mg 分1or分2 | 初：1日25mg 分1 維：1日25~50mg 分1 最：1日75mg 分1 (※1) | 【血液透析】初：5mg 分1 維：1日25~75mg 分1 透析後の補充用量：25~150mgを補充 【腹膜透析】初：25mg 分1 維：25~75mg 分1 (※2) | | |
| タリージェ錠 | 末梢性神経 障害性疼痛 | 初：1回5mg 1日2回 維：5mgずつ1週間以上間 隔をあけて漸増し、1回10 ~15mg 1日2回 | 初：1回2.5mg 1日2回 有効用量：1回5~7.5mg 1日 2回 | 初：1回2.5mg 1日1回 有効用量：1回5~7.5mg 1日1回 | | | | |
| サインバルタ カプセル | うつ病・う つ状態、糖 尿病性神経 性疼痛に 伴う疼痛 線維筋痛 症、慢性腰 痛症、変形 性関節症に 伴う疼痛 | 初：1日1回40mg 朝食後 維：1日20mgより1週間 以上の間隔を空けて1日 20mgずつ増量 最：1日60mg 初：1日1回60mg 朝食後 維：1日20mgより1週間 以上の間隔を空けて1日 20mgずつ増量 | 腎機能正常者と同じ 中程度腎障害では薬物動態に 変化が認められない (Clin Pharmacokinetic 49:311-321,2010) | 禁忌 (ほとんど尿中排泄されず、半減期も延長しないものの、AUC,Cmaxが約2倍に上昇する) ただし、やむを得ない場合には、吸収量の増加が原因と考えられることから、 血中濃度上昇分を考慮し投与量を減量することにより使用できるかもしれない。 本件に関しては、情報が不足していることから、今後の検討が望まれる。 | | | | |
| トラマール錠 | 各種癌・ 慢性疼痛に おける鎮痛 | 1日100~300mg 分4 (最大1回100mg,1日 400mg) | 慎重投与 (高い血中濃度が持続する おそれがある) 低用量から開始 | 慎重投与 (高い血中濃度が持続するおそれがある) 低用量から開始 最大1日200mgを12時間ごと | | | | |
| トラムセット 配合錠 | 非がん性 慢性疼痛 | 1回1錠 1日4回 投与間隔は4時間以上 最大1回2錠 1日8錠 | 腎機能悪化の恐れあり 高い血中濃度が持続し作用及び 副作用が増強する恐れあり 低用量から開始 | アセトアミノフェンが配合されているため、「重篤な転帰をとるおそれがあるために禁忌」となっているが、米国ではこのような記載はない | | | | |

(※1：添付文書は上記だが、1日25mg、最大1日50mgの投与を推奨する) (※2：添付文書は上記だが、1日25mgで透析日には透析後の投与を推奨する。1日50mgの投与が必要な時はより慎重に行う)

詳細

□リリカ：尿中排泄率90%であり、減量しても有害事象の発現率が高いため初回投与時は特に注意。

□サインバルタ：eGFR30未満(CKDシール赤色)の患者に対しては投与禁忌となる。糖尿病患者は腎障害を合併していることも多いため注意。

【補足】麻薬・弱オピオイド

腎機能低下患者に対する使用

| | |
|--------------|---------------------|
| ○ 使用可 | フェンタニル、タペンタドール、メサドン |
| △ 注意して使用可 | ヒドロモルフォン、オキシコドン |
| × 使用を控える | モルヒネ、コデイン、トラマドール |

指導時のワンポイント！

- ①まずは腎機能を確認
- ②初期用量をチェック
- ③めまいや眠気には十分注意(運転時、起立時、歩行時等)

編集後記

今回紹介した薬は、初回投与時だけでなく、増量時にも慎重になりたいところです。また長期にわたり服用が予想される薬のため、こまめに腎機能の確認をしたいですね。それではまた次回の春号で！(富士宮市立病院 薬剤部 A.I)